



空力デザイン

造形から磨き、EV走行距離の延長にも貢献するエアロフォルム。

## 空力デザイン概要

エアロパーツで補うのではなく、スケッチ段階からエクステリアデザインと空力デザインの連携をはかる。その方針のもと、クラリティシリーズが着目したのは、セダン特有の車体後方に発生する空気の縦渦。空気抵抗の主要因となり燃費性能に影響を与えるこの縦渦を低減するため、ルーフからトランク上面のボディー形状とキャビン側面の形状を室内空間を犠牲にすることなく最適化することで、車体上面と側面の空気の速度差を小さくし、空間を広く保ちながら優れた空力性能を発揮する外観デザインとしています。



### ■フロントエアカーテン

フロントバンパー下から空気を通し、フロントタイヤ外側に空気のカーテンをつくることで、ホイールハウスから発生する気流の乱れを抑制します。



### ■リアエアカーテンダクト

リアドア下部にエアカーテンダクトを設け、ダクトを通った空気がホイールハウスから発生する気流の乱れを抑制。(特許取得済 2018年7月時点)



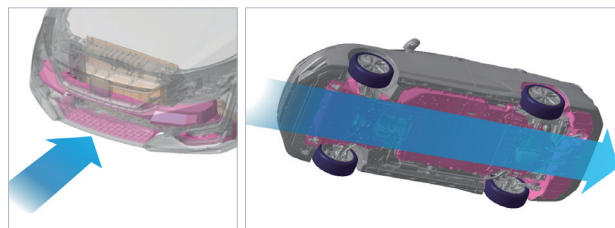
### ■リアタイヤカバー

リアタイヤまわりの乱流を抑えるためにタイヤ上部をカバーしました。カバーはタイヤ交換時の利便性を考慮し、クルマをリフトアップすればリアタイヤの交換ができる形状としています。



### ■ラジエーターグリル/アンダーフロアカバー

小さな開口面積のラジエーターグリル内部にダクト機構を設けることで、冷却機能の効率化と空力性能の両立をはかりました。また、アンダーボディーをフルカバーし、空気の流れをスムーズにしています。



### ■18インチアルミホイール

アルミの本体に樹脂キャップを装着した、ユニークなハイブリッドホイール。ブレーキ冷却、空力、デザイン、さらには軽量化など、ホイールに求められる多くの課題へのトータルなチャレンジから生まれたカタチです。



樹脂キャップ

18インチアルミホイール

デザインしたのは、  
とびきり新しい「普通」です。

クラリティシリーズのデザイン開発において、我々の意志は「新しい自動車をつくる」という一点に貫かれていました。時代の先頭を走るクリーンカーの姿はどうあるべきか、というのは確かに大きな問題です。変わったカタチが目立ちかもしれない。空力デザインを前面にアピールすべきかもしれない。しかし、私たちはそうした考えを採りませんでした。めざしたのは、いかにもショーカー然としたデザインスタディーではなく、乗る人すべてが運転しやすく使いやすい「自動車」としての機能を少しも損なうことなく、なおかつ未来をカタチにすることだったからです。そうしたなか、まず思い浮かんだのは、海の生き物というイメージでした。すべての生命の故郷たる海を、水の抵抗を軽やかにいなしつつ、軽やかに駆けめぐりながら、堂々とした存在感と美しさをも併せ持つ——イルカやシャチをどこか感じさせるフォルム。そしてその内側には、クルマの王道ともいえるミドルサイズセダンであるために欠かせない、大人5人がゆったりと過ごせる広々としたキャビンとたっぷり積めるトランクスペース。バッテリーなど多くのデバイスを床下に積むPHEVでありながら、全高を可能な限り低く抑えたクラリティ PHEVのカタチはこうして生まれました。この「新しい自動車」こそ、近未来のメインストリームであるために。

(談：クラリティ PHEV 開発スタッフ)